

「平和都市条例制定にむけて」

「国立市平和都市条例」制定をめざす会代表 家坂平人さん

くにたちのよき伝統を蘇らせ
ることを念頭に

国立市はリベラルな市民の力が割合に強く、そのよつな民意が市の行政に比較的高度に反映されている自治体とまわりからとかく見られがちですが、昨今の状況を見ると必ずしもその見方は的を射ていません。市民が自由に発言しそれが市政にも活かされるといづくにたちのよき伝統はここ数年失われつつあり、かわって保守化・右傾化の波は議会の勢力地図をはじめ市民のさまざまな活動にもその影響を及ぼしつつあります。

無防備地域の条件をまちづくり
に具体化する条例の制定をめざす
この運動は、このくにたちでもその
基本的意義において他の自治体と
同じですが、市民がくにたちの環境
や街並みの保全などにこれまで果
たしてきた大きな役割を考えると
き、このくにたちのよき伝統をこの
運動の中にも是非取り込みあるい
は蘇えらせることを念頭に置きな

がら活動を進めていく必要がある
と思います。

無防備地域の条件を具体的に自 分の言葉で

そうはいっても、マンション化
市街化の波はこの国立市でも例外
ではなく、まちのあり様や人の構成
も変貌させつつあるのは事実で、世
代の交代ともあいまって従来の市
民の活動が同じような図式や条件
で行えるわけではありません。

従って、この無防備地域運動の持
っているジュネープ条約や第一追
加議定書の理解などのややとつ
き難い側面と、他方で日本国憲法の
9条の積極的平和主義を貫くとい
うストレートにアピールする側面
とをどのようにバランスをとって、
いわゆる普通の市民の方に伝える
ことができるかということが最も
心をくだき、勉強を重ねてきました。
つまり、無防備地域の条件を具体的
に活用することを、「自分の言葉で語
れるようになること」、「そしてそれ
をまったく予備知識のない他者に

理解してもらおうことがこの運動の
成否の鍵でさえあるとわたしは感
じています。

市民力の復活・再生を

国立市はその首長とともに、「マ
ンション景観」問題や「日の丸・君
が代」騒動などのおかげである意味
で市民運動のシンボルの存在とし
て見られていることもたしかであ
り、一足先に署名活動を開始した日
野市の動向とあわせて特に首都圏
では好むと好まざるとにかかわら
ず注目されることでしょう。

だからこそ、多摩地区をはじめ全
国への今後の広がりによこれらの両
市の結果がある程度の影響を与え
ることを考慮しなければなりません。
少々僭越な言い方になりますが、
最終的な結果はともあれ、少なくと
もこの署名活動を通じてできるだ
け多くの市民とふれあう中から多
様な主張を乗り越えた広範で横断
的な「市民力」を復活・再生させる
ことができれば、付随的なことなが
ら大きな意味を持つことになるで
しょう。

「平和に生き、暮らすことがあ
たりまえのまち」へ

今、国立では昨年続き「ピース
ウィーク」に「くにたち」と銘打って
「平和に生きる権利をいま」という
メイン・テーマで、市内のさまざま
な市民グループが各々の企画を一週
間のなかに集中させるイベントが行
われていきます。

わたしたちもこの活動に参加し
ながら署名のスタートへとつなげ
ていきます。この「平和のうちに生
きる」ことの大切さ、そしてその権
利がわたしたちには憲法で保障さ
れており、決して抽象的で観念が先
行する運動ではなく、「平和に生き、
暮らすことがあたりまえのまち」を
市行政に求めるという、わたしたち
の身近な生活に根ざした活動に
署名という行為で参加しても

らう側面を前面に打ち出して行き
たいと考えています。そうすること
が広範な一般市民の人たちの関心
を呼び起こすことにつながるの
ではないでしょうか。

今、残念ながら多くの人たちは日
本が限りなく「戦争ができる国」に
向かいつつあるという危機的な状
況に無関心であるように見えます。
少なくとも行動に参加するまでの
意識をわたしたちと共有してはい

(次ページ下段に続く)